

NPO釜ヶ崎 現場通信 39号

扇町三人衆の行く末は…… 仕事に来て、救急車。脳梗塞で即入院

バス停清掃に輪番就労していた仲間が、夕方になって気分が悪いというので、救急車を呼んだ。

一緒に来ていた仲間によると、「朝から調子が悪いと言っていたので、今日は仕事、やめとけいうてたんやけど」ということで、前兆はあったらしい。その段階で、救急車を呼んでいれば、結果はもう少し変わっていたかも知れないが、案外その段階では、点滴を打たれて帰されただけで、結局、もう少し症状が出てからでない入院と言うことにはならなかったかもしれない。

救急車が来たとき、その仲間が、「よっしゃ、ワシがつれてった」と、二人腕組みして救急車の方へユルユル歩いていったのだが、それを迎えた救急隊員が一言。「どっち」

救急隊員の目では、どちらが救急患者で、どちらが介護者か、判断できなかったようだった。手を貸したつमोरの仲間も、元気いっぱいという状態でないことは明らかだった。

救急車で仲間が運ばれた日から番号が一回りした日に、手を貸した仲間が就労に来て、帰りにお見舞いを沢山持って大和中央病院に行った。

入院した仲間は、少しロレツが回りにくく、左半身がややマヒしている状態だった。お見舞いを受けた方が、お見舞いした方を気遣って「あんたももうポチポチ考えなアカンな。」

伝え聞くところによると、扇町公園で65歳前後、似たような年格好の、仲の良い三人組として有名な人達で、その内一人はすでに入院していると言うことだ。

思うに、この三人は、施設も生活保護もいらんワイ、頑張れるとこまで頑張るんじゃ、と、三人で支え合って困難な野宿生活をしのいできたのだと思う。

「人生意気に感ず」で、状況や結果がすべてではないと思う反面、まだ先長く使える身体、もう少し何とかならぬいかとも思う。

「何とかしようともがいたときに、誰も何ともしてくれなかったじゃないか。努力して、努力して、ようやく今の生活があるのに、軽々しく批評するんじゃない」。

わかる。わかるが、さりながら……だ。

結核検診の結果

9月26日に、夜間宿所や清掃事務所でおこなわれた、結核検診では、夜間宿所で205名が、清掃事務所で64名が受診しました。

その結果、夜間宿所受診者の中で6名が、清掃事務所受診者の中で3名が、精密検査が必要との判定となりました。

誰もが抱えている脳という爆弾、結末は悲惨！ 脳梗塞とは？ 脳梗塞の原因は？

脳血栓、脳塞栓、という言葉をご存知でしょうか？いずれも脳の血管がつまったり細くなったりする状態なのです。**脳血栓**とは、脳の血管に動脈硬化などの変化が起こり、そのような部分に血液が固まって血管が細くなったり、つまってしまった状態です。**脳塞栓**とは、心臓や心臓を出てから脳に至る前の血管の中で血液が固まった血栓が出来て、これが血液の流れに乗って脳の血管に入り込んで脳の血管をつめてしまう状態です。いずれの場合も血液が不足したままだと脳の組織が梗塞になってしまいますが、早期に脳の血流が改善すると脳梗塞を免れたり、障害を最小限で食い止めることが可能になります。早期からの治療が大切になります。

脳梗塞が起こった場所によって**症状**は様々ですが、よく知られた症状は麻痺、しびれ、構語(ろれつ)障害、などです。その他、めまい、ふらつき感、失語症(言葉が分からなくなったり、話せなくなる)、ぼけてしまったような症状(人の顔がわからなくなる、道に迷う、道具の使い方がわからなくなる、衣服をうまく着ることができない)が出ることもあります。(このような症状は脳出血の場合も起こりうる症状なので、症状だけでは脳梗塞なのか、脳出血なのか判断出来ないこともしばしばです。)

症状の起こりかたとしては、活動中に急に症状がでるような場合と、気がついたらいつの間にか症状がでているような場合があります。

日頃からの**予防**が大切です。高血圧、心臓病、高脂血症(血液中のコレステロールや中性脂肪の高い人)、糖尿病などがある人はそれらの治療が大切です。

(富士宮市立病院脳神経外科 佐藤顕彦氏の個人的なホームページを参照しました)